

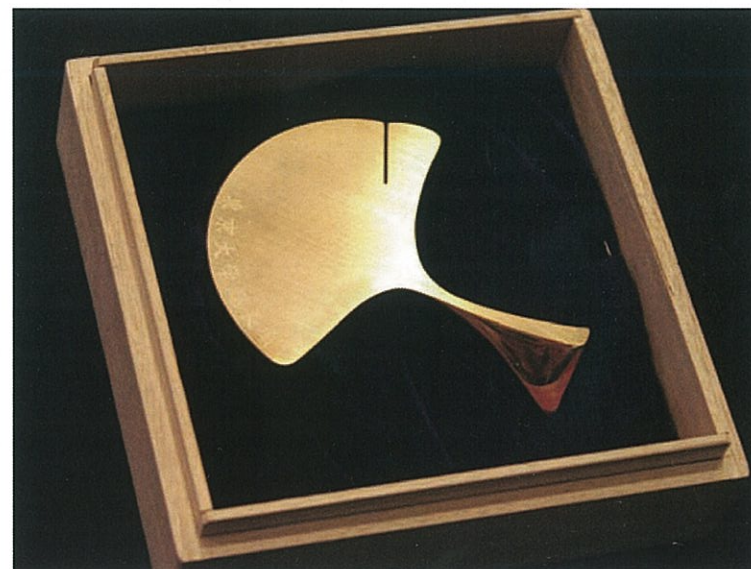
式次第

- 1 開 式
- 2 選考結果報告 学生表彰選考会議議長 長谷川 壽 一
- 3 表彰状及び記念品の授与 総長 濱田 純 一
- 4 総長挨拶
- 5 受賞者プレゼンテーション
総長賞【課外活動・社会活動等】
おいしい三陸応援団
法学部 四年 神 部 あかね
超小型深宇宙探査機PROCYONプロジェクトチーム
理学系研究科 修士課程一年 藤 本 征 史
学際情報学府 修士課程二年 角 野 為 耶
文学部 卒業 新 井 俊 樹
教育学部 四年 田 野 崎 はるか
工学部 四年 箕 原 凜
工学部 三年 松 崎 尚
総長賞【学業】
理学部 四年 豊 田 良 順
文学部 四年 新 津 健 一 郎
工学系研究科 修士課程二年 足 立 真 輝
人文社会系研究科 修士課程二年 渡 邊 要 一 郎
理学系研究科 博士課程三年 秋 山 和 徳
工学系研究科 博士課程二年 江 崎 貴 裕
新領域創成科学研究科 博士課程三年 蔦 谷 匠
総長大賞
工学系研究科 博士課程三年 青 木 翔 平
薬学系研究科 修士課程二年 丹 治 裕 美
- 6 閉 式

平成26年度

学生表彰「東京大学総長賞」

授与式



平成27年3月23日(月)
小柴ホール

総長賞への言葉



総長賞を授与された皆さん、おめでとうございます。

東京大学総長賞は、個人や団体の活動において、優れた成績を収め、また、そのことが他の構成員や本学の名誉に対して良い影響を与えたことを讃える賞です。皆さんの受賞は、それぞれにこの数年間夢中で取り組んできたことへの成果が認められたものです。

いろいろな機会に私は、「タフ」な東大生、つまり知的なタフさにくわえて、人間的な力や国際的な力を鍛え、たくましいコミュニケーション力や大胆な行動力を備えた東大生の輩出を目指すとして申し上げてきました。本賞が、学生

の皆さんの様々な意味での「タフ」さを喚起する良い機会になることを期待しています。

今後ともこの受賞の感動を忘れず、自分自身で選択した領域の活動に邁進し、周囲の人々とともに切磋琢磨してください。皆さんが引き続き輝かしい成果を挙げられますよう応援しています。

最後になりましたが、本日まで協力して下さった関係者各位、及びご参集いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

東京大学総長 濱田 純一

「東京大学総長大賞」受賞者紹介

総長大賞



工学系研究科 博士課程三年

青木 翔平

青木氏は修士課程の際にバングラデシュの農村部における理科実験の出張授業や実験映像の教材製作を行った。この体験から発展途上国の問題は現地の人々によって解決できるという確信を得た同氏は、博士課程に進学後複数回ガーナに滞在し、工業高校の中のFabLabと呼ばれる工房において工学教育を高校生に対して行った。そこで製造業が未発展なために工業高校の卒業生の働く受け皿がないというガーナの現状に気づき、経済産業省の支援を受けて、製造業を担う現地起業家を育成する社会的企業の創業に向けた活動を展開した。途上国の社会問題を工学的に解決するという信念を貫き、修士及び博士課程を通じて真摯に取り組み続けた姿勢とその実績が高く評価された。



薬学系研究科 修士課程二年

丹治 裕美

生体が病原体から身を守る手段には自然免疫と獲得免疫があり、病原体の侵入に対してまず自然免疫が発動する。Toll様受容体8 (TLR8) は、ウィルス由来の核酸を認識して自然免疫応答を発動し、炎症や抗ウィルス作用を引き起こす。TLR8はウィルス感染や自己免疫疾患に関わっており、医学・薬学的に非常に注目されている。丹治氏は、TLR8の立体構造を世界で初めて明らかにし、新規の活性化機構を実証した。さらに、抗ウィルス薬や核酸がTLR8に結合する詳細な様式を解明した。これらの成果はScience誌をはじめとする科学誌に掲載され、今後の治療薬開発に新たな視点をもたらすものと期待される。

「東京大学総長賞」受賞者・団体紹介

総長賞【課外活動・社会活動等】



おいしい三陸応援団

おいしい三陸応援団は、「3・11を忘れないでほしい」という問題意識から、多くの人々に関心を持ち続けてもらうことを目的として復興の応援を行う団体である。2011年7月以来、全11事業者に対して約3か月毎にインタビューを行い、それを基に事業者の軌跡や思いが伝わるエピソードを執筆、ウェブサイトに掲載してきた。SNSによる最新情報の発信も行っている。また、柏の葉キャンパス駅周辺で開催されるマルシェコロールでの三陸商品の販売や、ワークショップの開催を通じたface to faceでの情報発信も積極的に行ってきた。これらの継続的な活動が高く評価された。



法学部 四年

神部 あかね
(筆名:辻堂ゆめ)

長編小説『いなくなった私へ』(刊行時タイトル。受賞時の『夢のトビラは泉の中に』より変更)で、株式会社宝島社が主催する第13回『このミステリーがすごい!』大賞の優秀賞を受賞した。同賞はミステリー分野の長編小説を対象とした新人賞で、過去には『チーム・バチスタ』シリーズの海堂尊氏、『四日間の奇蹟』の浅倉卓弥氏、『さよならドビュッシー』の中山七里氏など、数々のベストセラー作家を輩出している。今回の神部氏の受賞が、学生による同賞(大賞・優秀賞)の初の受賞となった。受賞作『いなくなった私へ』は2015年2月10日、宝島社より単行本として刊行され、今後の活躍が期待される。



超小型深宇宙探査機
PROCYON
プロジェクトチーム

PROCYONは2014年12月3日にははやぶさ2相乗り副ペイロードとして深宇宙軌道に投入された50kg級の超小型深宇宙探査機であり、航空宇宙工学専攻の学生25名程度を中心とするチームによって開発された。大型探査機と比べ重量で1桁以上軽く、コストは2桁も小さい世界最小の深宇宙探査機であるが、深宇宙空間での電力確保、超遠距離通信、熱・姿勢・軌道制御などを実証し、最終的には小惑星の近接写真を撮ることを目的としている本格的な深宇宙探査機でもある。50kg級の深宇宙探査機を実現したことは世界初の成果であり、高度な深宇宙探査ミッションを高頻度で実現できるようになることが期待される。



藤本 征史 角野 為耶
新井 俊樹 田野崎はるか
蓑原 凜 松崎 尚史

ダブルダッチとは2本の回る縄を跳びながら音楽に合わせて、技術力・表現力・構成力・独創力を競うパフォーマンス競技であり、現在世界30カ国以上に競技人口を有する。この6名は、2014年3月に行われたダブルダッチ競技における最大規模の世界選手権大会に国内予選を経て出場した。国内外のプロチームも参加する中、パフォーマンス部門優勝、および総合準優勝を果たした。同大会において学生チームでの優勝達成は初めてである他、独創力の項目において大会史上最高得点を記録した。これらの結果は学内外の学生の範となるだけでなく、国際的に通用する創造力として高く評価された。

総長賞【学業】



理学部 四年
豊田 良順

既存デバイスの軽小化が限界に達しようとしている現在、電子・光輸送能をもつ分子ナノ細線は機能材料として期待されている。豊田氏は卒業研究において優れた光機能を持つジピリン金属錯体およびこれをモチーフとした高分子錯体ナノ細線について、三種の研究テーマに挑戦した。特に「光機能性ナノ細線の研究」では、化学構造を適切にデザインすることで優れた加工性を誇り、同時に発光・光電変換機能を有するナノ材料の創製に成功し、この研究成果は国際学術誌に掲載された。また、他テーマについても成果を学会で発表し、筆頭著者として国際学術誌に論文を投稿した。これらの研究業績ならびに学業成績が高く評価された。



文学部 四年
新津 健一郎

2010年、中国四川省成都市中心部で出土した2基の石碑は共に後漢時代(2世紀)に郡学の教官らにより立てられた蜀郡太守顕彰碑であった。郡学とは儒教を教習する一種の官立学校で、前漢時代(紀元前2世紀)に蜀郡太守であった文翁が成都に設置した事例をもって始まりとする。新津氏は新発見の碑文に対する詳細な解釈を通じて成都郡学の姿を浮き彫りにすると共に、これらの碑を建てた郡学教官の多くが四川各地の豪族出身者からなることを発見し、四川における儒教を媒介とした地域社会の形成を指摘した。本研究は新出土史料を用いて、学問と在地社会という視点からより立体的な中国古代史像を描き出した特筆すべき卒業論文である。



工学系研究科 修士課程二年
足立 真輝

現在、広く普及しているコンピュータの性能限界が近づく中、超低消費電力・超高速計算を実現する脳型コンピュータが期待されている。足立氏は、脳型コンピュータ実現に向けて、一般に宝石として知られる(熱的・化学的安定材料)ガーネット結晶に、磁性元素(希土類・鉄)と人工的な結晶格子歪(フラストレート)を導入することで、世界初の“スピニゆらぎ”の室温動作を実現し、脳機能を模倣する素子の開発に成功した。この成果は、参加者千人規模の国際会議である46th SSDMで、Young Researcher Award、電子情報通信学会エレクトロニクスソサエティ優秀学生表彰対象の選出を受けており、国内外から高い評価を得ている。



人文社会系研究科 修士課程二年
渡邊 要一郎

上座部仏教世界においては、聖典言語であるパーリ語に対する土着文法学の伝統が存在する。しかし、教理等の研究に比べるとこの文法学研究は現在まで極めて手薄な状況である。渡邊氏は12世紀ビルマで、学僧アツガヴァンサによって著述されたパーリ文法学の一大著である『サッダニーティ(言語理論)』の冒頭を飾る『バダマーラー(語彙篇)』巻に対する世界初の全訳を完成させ、詳細な注を施し、ならびに、この文献の重大な特徴のいくつかを明らかにした。この研究はパーリ文法学研究上の成果であることとどまらず、12世紀の上座部仏教世界の変容を理解する上でも格好の資料となり得るものであり、その将来性が高く評価された。



理学系研究科 博士課程三年
秋山 和徳

ブラックホール、光すらも脱出できない「事象の地平面」を持つ不思議な天体の写真を撮り、その存在を証明することを目指すEvent Horizon Telescope (EHT)と呼ばれる国際プロジェクトが進められている。秋山氏は日本の学生として唯一EHTに参加し、ブラックホール画像の構造決定に必要な不可欠となる観測量の初検出やブラックホールの直接撮像の実現可能性の実証など、プロジェクトを牽引する成果を創出してきた。同氏は国内外での学会の招待を受け研究成果を講演したほか、一部の成果を日本天文学会の推薦のもと記者発表し、テレビ・全国紙等で報道されるなど、国内外で高い評価を受けている。



工学系研究科 博士課程二年
江崎 貴裕

人の移動、車の交通や物流といった社会における「なかれ」は渋滞の発生を始めとした様々な複雑な振る舞いを示すことが知られているが、それらの知見を現実のシステムに対して応用するためには未だ大きなギャップが存在する。そこで江崎氏は既知の渋滞特性を所与のものとして、それらをネットワーク状に繋いだマクロな数理モデルによる枠組みを提案した。これにより既知の渋滞現象とは質の異なる「ネットワークレベルでのマクロな渋滞」が発生することに加え、単純な制御によりそれを緩和できることを示した。これらの成果は実際の空港ネットワークや道路ネットワークにおける交通量制御の基礎理論として高い評価を受けた。



新領域創成科学研究科 博士課程三年
薦谷 匠

授乳期間中は母親の排卵再開が抑制されるので、授乳期間を復元することで、過去の人類の出産間隔についての情報が得られる。遺跡から発掘された子供の骨に含まれる窒素同位体の存在比を測定し、母乳の摂取割合を推定する研究が1990年代より行われてきた。薦谷氏は、この方法で得られるデータを客観的・定量的に解釈するための数理モデルを開発し、それを江戸時代の江戸町人、中世鎌倉の庶民、アイヌ以前の北海道狩猟採集民に適用し、これらの古人骨集団における授乳期間を明らかにした。さらにその結果を歴史文献や文化人類学のデータと比較し、出生や人口の増減について議論した。これらの学際的研究が高く評価された。